

大学機関別選択評価

# 自己評価書

令和3年6月

愛知教育大学



## 目 次

大学の現況及び特徴	1
目的	2
選択評価事項 B 地域貢献活動の状況	4

## 大学の現況及び特徴

### 1 現況

(1) 大学名 愛知教育大学

(2) 所在地 愛知県刈谷市

(3) 学部等の構成

学部：教育学部

研究科：教育学研究科，特別支援教育特別専攻科

関連施設：附属図書館，教職キャリアセンター，教育臨床総合センター，国際交流センター，地域連携センター，

科学・ものづくり教育推進センター，健康支援センター，

ICT教育基盤センター，キャリア支援センター，教員養成開発連携センター，日本語教育支援センター，インクルー

ーシブ教育推進センター，なんでも相談室，附属学校園

(4) 学生数及び教員数（令和3年5月1日現在）

学生数：学部 3,703 人，大学院 266 人，

特別支援教育特別専攻科 29人

専任教員数：193人 助手数：1人

### 2 特徴

(1) 沿革・理念

愛知教育大学の淵源は，小学校教員の養成（師範教育）を目的に明治6年に開校した愛知県養成学校に始まり，昭和24年，新制国立大学の一つとして，旧制諸学校である3つの師範学校を母体に愛知学芸大学学芸学部が発足し，昭和41年には愛知教育大学教育学部に改称した。その後，児童生徒の急増を背景に学科・定員を拡充し，昭和53年には，研究能力を有する教員の育成を目的として教育学研究科（修士課程）を設置した。昭和62年には，教員採用者数の減少に伴い，教員養成課程の定員を一部振替えて，いわゆるゼロ免課程として総合科学課程を新たに設置した。さらに，平成12年に，教員養成課程の入学定員を削減し，併せて総合科学課程を学芸4課程に改組した。その後，団塊世代の大量退職に伴う教員の大量採用に備えて，平成18～19年に学芸4課程を現代学芸課程に改組し，教員養成課程に定員の一部を振替えて，教員養成課程の入学定員を拡充した。また，平成20年には，実践的指導力を身に付けた教員の養成を目的に教職大学院を設置し，さらに，平成24年に，教科開発学の専門研究者等を養成するため教育学研究科共同教科開発学専攻（後期3年博士課程）を設置した。平成29年には，現代学芸課程を，チーム学校に貢献する教育支援人材の養成

を目的とした教育支援専門職養成課程に改組した。また，令和2年に，教育学研究科修士課程及び教育実践研究科の入学定員を見直し，教育学研究科に教育実践高度化専攻及び教育支援高度化専攻を設置した。さらに，令和3年には，得意分野・教科の専門性と教職の専門性を兼ね備えた教員を養成するため，学校教員養成課程を改組した。

(2) 教育学部の特徴

学校教員養成課程は，『幼児教育専攻』，『義務教育専攻』，『高等学校教育専攻』，『特別支援教育専攻』，『養護教育専攻』の5専攻を置き，得意分野・教科の専門性と教職の専門性を兼ね備えた教員を養成し，教育実習の事前事後指導の充実や専攻科目カリキュラムとの往還的な学修を行っている。

教育支援専門職養成課程は，教育に関する基礎知識に加え，心理，福祉，教育行政に関する専門的知識及び技能を習得し，学校において，教員と連携・協働して，複雑化・困難化する学校現場が抱える様々な教育課題の解決に1)臨床心理の専門職として貢献できる人材，2)福祉の専門職として貢献できる人材，3)教育行政の専門職として貢献できる人材を養成している。

(3) 教育学研究科の特徴

教育実践高度化専攻は，教職実践の「理論と実践の融合・往還」を主要テーマに据えながら，「21世紀型能力」を身に付けさせる専門的な授業力，「豊かな人間性」を育成する生徒指導力・学級経営力，及び学校マネジメント等による学校組織の活性化を図る資質・能力を獲得することを目的に，教職大学院で指定されている共通科目5領域，及び大学独自の領域を設定している。

教育支援高度化専攻は，教育現場と地域に即した高度な専門的知識，教育方法，研究能力を身に付け，学校をプラットフォームとした「チームとしての学校」体制の実現を目標とする次世代の日本型教育システムを研究開発し，それを諸外国も含め実践・展開できる人材の育成を目指し，教育課程を編成・実施している。

静岡大学教育学研究科との共同設置による教育学研究科共同教科開発学専攻（後期3年博士課程）は，大学教員の養成を目指し，教員養成学部の独自の専門性の確立のために，教員養成の高度化に相応しい教育研究を遂行している。

## 目的

### 1 大学の理念

愛知教育大学憲章において、愛知教育大学の理念は、「学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、日本国憲法、教育基本法、ユネスコの高等教育に関する宣言等の理念を踏まえ、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努めることが、普遍的使命であることを自覚」し、「学部及び大学院学生、大学教職員、附属学校教職員等を構成員とし、大学の自治の基本理念に基づき、大学における自律的運営が保障される高等教育機関として、また国により設置された国立大学として、その使命を果たすため、本学の教育目標と研究目標、教育研究及び運営のあり方を定め、これを広く社会に明らかにするものである。」ことを定めている。

### 2 大学の目的

本学は、愛知教育大学憲章を踏まえ、学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する学問の府として、大学の自治の基本理念に基づき、教育研究活動を通して世界の平和と人類の福祉及び文化と学術の発展に努める。

### 3 大学の教育及び研究目標

愛知教育大学憲章において、愛知教育大学の教育目標は、平和で豊かな世界の実現に寄与しうる人間の教育をめざすこととしており、学部教育においては「教養教育を重視し、教員養成諸課程では多様な教員養成プログラムを通して、平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成をめざす」と定められており、大学院教育においては「学部教育を基礎に、学校教育に求められるさらに高度な能力を有する教員の養成をめざすとともに、諸科学の専門分野及び教育実践分野における理論と応用能力を備えた教育の専門家の育成をめざす。また、大学院を教員の再教育の場としても位置付け、教師教育の質的向上を図る」と定めている。

また、愛知教育大学の研究目標は、「愛知教育大学は、教育諸科学をはじめ、人文、社会、自然、芸術、保健体育、家政、技術分野の諸科学及び教育実践分野において、科学的で創造性に富む優れた研究成果を生み出し、学術と文化の創造及び発展に貢献する。さらに、その成果を社会へ還元することを通して、人類の平和で豊かな未来の実現、自然と調和した持続可能な未来社会の実現に寄与する。」と定めている。

### 4 大学の使命及び教育研究のあり方

愛知教育大学憲章において、大学の使命及び教育研究のあり方について、以下のとおり定めている。

(1) 学問の自由と大学の自治……自発的意思に基づく学術活動が、世界平和と持続可能な社会の形成に寄与することを期して、学問の自由を保障する。また、大学の自治が保障された自律的共同体として、教育が国民全体に責任を負って行われるべきであることを自覚し、不当な支配に服することなく、社会における創造的批判的機能を果たす。

(2) 世界の平和と人類の福祉への貢献……学術の基礎研究と応用研究をはじめ、未来を拓く新たな学際的分野にも積極的に取り組み、世界の平和と人類の福祉及び学術と文化の発展に貢献する。

(3) 教師教育に関わる教育研究の推進……広く人間発達に関わる諸学問と教育方法の結合を図りながら、教員養成や教員の再教育などの教師教育に関する実践的教育研究を行うとともに、教師の専門性と自律性の確立をめざした教育研究を推進する。

(4) 国際交流の推進……国内外の高等教育諸機関との連携や国際交流を推進し、留学生の積極的受け入れ及び派遣を通して、アジアをはじめ、世界の教育と文化的発展に貢献する。

(5) 大学の社会に対する責任と貢献……学外への情報公開及び広報活動を通して、社会に対する説明責任を果たし、学外からの声に恒常的に応え、社会に開かれた大学を実現する。また、教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献する。

## 5 大学運営のあり方

以上の理念，教育・研究目標，使命を果たすために以下の諸点を，大学運営のあり方として愛知教育大学憲章で掲げている。

(1) 大学の民主的運営……全ての構成員が，それぞれの立場において，本学の目標を達成するため，大学の諸活動へ参画することを保障し，民主的運営を実現する。構成員は，大学の自治を発展させるための活動を相互に尊重するとともに全学的調和をめざす。

(2) 学生参画の保障……学生の学修活動を支援し，教育改善への学生参画を保障する。

(3) 教育研究環境の整備充実……豊かな自然環境を保全活用し，施設設備を含む教育研究環境の整備充実を図るとともに，障害者にもやさしい大学づくりを進める。

(4) 自己点検評価と改善……本学の教育目標と研究目標に照らして，恒常的な自己点検評価により，不断の改善に努める。

(5) 人権の尊重……全ての構成員が相互に基本的人権と両性の平等を尊重し，教育研究活動における，あらゆる差別や抑圧などの人権侵害のない大学を実現する。

## 6 教育課程の目的

### (1) 教育学部

学校教員養成課程は，多様な教員養成プログラムを通して，平和な未来を築く子どもたちの教育を担う優れた教員の養成をめざし，教育支援専門職養成課程は，心理・社会福祉・教育行政等の専門性を深め，教育活動と子どもたちを支援する専門職の養成をめざすことを目的とする。

### (2) 教育学研究科

#### ア 専門職学位課程（教職大学院の課程）（教育実践高度化専攻）

教職大学院の課程は，学校現場の実情に即した教科領域等も含め，学校教育に関わる理論と実践の融合を基本とし，理論の応用並びに実践の理論化に関わる諸能力の修得によって実践的指導力を備えた教員を養成するとともに，一定の教職経験を有する現職教員に対しては，確かな指導理論と実践力・応用力を備え，指導的役割を果たし得る教員を育成することを目的とする。また，教職大学院の課程を実践的なキャリアアップの場として位置付け，学校・地域及び教育関係諸機関との連携を活かしつつ，教師教育の更なる質的向上を図る。

#### イ 修士課程（教育支援高度化専攻）

修士課程は，社会的要請を踏まえ，教育支援に関わる高度な専門的知識，研究能力を有する人材の育成を図ることを目的とする。併せて，日本型教育の特徴をよく理解し，諸外国における教育の向上に貢献できる有為な人材の育成をめざす。また，社会人においては，修士課程を，個々人のキャリアを活かし，専門性の更なる向上を図る場として位置付ける。

#### ウ 後期3年博士課程（共同教科開発学専攻）

後期3年博士課程は，専攻分野について，研究者として自立して研究活動を行い，又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

## 選択評価事項 B 地域貢献活動の状況

### 1 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」に係る目的

本学がある愛知県は、日本語指導が必要な外国籍児童、同じく日本国籍児童がともに全国で最も多い県である。また、外国人労働者は東京都に次いで全国で2番目に多く、日本在留外国人の1割が愛知県で働いている。その半数は、製造業に従事している。このように、本学が位置する地域は、主要産業である製造業に従事する外国籍市民と外国にルーツを持つ児童・生徒が全国的に高い比率の地域である。このような地域からの本学の地域貢献へのニーズは、児童生徒への「日本語教育」と製造業を支える「科学・ものづくり教育」が多い。特に、教育大学であることから、教育分野での連携を本学は期待されている。この地域状況をふまえて、本学は、次の3点を重視して地域貢献に取り組んでいる。

#### (1) 地域と連携した日本語教育支援と発達支援・心理教育相談

日本語学習を中心とした支援（日本語教育指導）を必要とする外国人児童生徒及び労働者が多いことから、地方公共団体・NPO等と連携して、ボランティア活動に参加する人が指導技術を身につけるためのプログラム等の策定及び教材開発を行っている。また、多文化共生を前提とした学校教育を担う教師の能力向上のため、愛知県内教育委員会と連携協定を結んで、地域ニーズに沿って多様な連携講座を開設している。あわせて、子どもの発達や自己理解含む市民からの相談窓口を設け、地域の多様な課題に発達支援・心理相談分野から取り組み、安心・安全な地域づくりに貢献している。

#### (2) 企業と連携した科学・ものづくり教育、ユネスコスクールとしてのESD・SDGsの推進

ICT教育に関する共同研究、環境エネルギー教育等を継続的に推進し、また、NIE（新聞を教材として活用した教育）を新聞社との共同事業により推進している。さらに、各種の企業体験やインターンシップ、フレンドシップ事業等の連携を強化し、学生や教職員の社会性や地域貢献への意欲を向上させている。特に「科学・ものづくり教育」及び「ESD・SDGs」への取り組みを進める。本学は、7校の附属学校園を含めてユネスコスクールである。特に大学としては、少ない中での一校（全国で5校 令和3年5月末現在）であり、ESD・SDGsでの地域貢献を進めている。

#### (3) 地域貢献を進めるための学内外のシステム整備

学校を取り巻く今日的課題の一つとして、学校と地域とが協働して次世代教育に取り組む「地域学校協働活動」がある。この協働活動を実現し、継続させるためには、その仕組みをつくるという大きな課題がある。本学自体も地域と協働したチーム学校モデルとなる必要があるため、学内外の組織の整備や新たな連携を進めるなどシステム整備に取り組んでいる。具体的には、愛知県内教育委員会との連携協定や公共団体との包括協定の整備を進めるとともに、協定にもとづく協働を実施できるセンター等学内のシステム整備に取り組んでいる。なお、本学は、藤田医科大学との「医教連携」により、従来と異なる視点から地域教育の新たな可能性を創造することにも取り組んでいる。また、藤田医科大学をはじめとする4大学、刈谷市、豊明市、美浜町の愛知県内3市町及び独立行政法人都市再生機構（UR）と「地域を支える人材育成プラットフォーム」をつくり、協働による地域貢献を進め、広域拠点型教育大学としての役割を担う。

## 2 選択評価事項 B 「地域貢献活動の状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

観点 B - 1 - : 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

#### 【観点到に係る状況】

本学は、愛知教育大学憲章の「教育研究のあり方」の「5.大学の社会に対する責任と貢献」で、学外からの声に恒常的に応え、社会に開かれた大学を実現し、広く社会と連携し、教育研究を還元し社会の発展に貢献することを、定めている。【資料 B - 1 - - 1】

第3期中期目標においては、ものづくりが盛んな中部地区において、科学・ものづくり教育や外国人児童生徒支援教育等の地域社会の要請に応えるため、教育関係機関との連携を深め、地域に根ざした「教育の総合大学」としての特性を生かした社会貢献を実施することを掲げている。【資料 B - 1 - - 2】

そして、中期計画で目標実現のための具体的な方策を定め、年度計画において事業年度ごとの計画を定めている。【資料 B - 1 - - 3】

これらの計画は主に地域連携センターで取り組んでおり、地域連携センターにおいて開催する事業等の計画については、本学 Web サイトやパンフレットの配布等、関係機関や新聞等のメディアを通じて、参加者や対象者に応じた方法により適切に周知している。

#### 【資料 B - 1 - - 1】愛知教育大学憲章

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/outline/charter.html>

愛知教育大学は、学外への情報公開及び広報活動を通して、社会に対する説明責任を果たし、学外からの声に恒常的に応え、社会に開かれた大学を実現する。

#### 【資料 B - 1 - - 2】国立大学法人愛知教育大学第3期中期目標

[https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/H28\\_03\\_mokuhyou\\_160301.pdf](https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/H28_03_mokuhyou_160301.pdf)

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標  
ものづくりが盛んな中部地区において、科学・ものづくり教育や外国人児童生徒支援教育等の地域社会の要請に応えるため、教育関係機関との連携を深め、地域に根ざした「教育の総合大学」としての特性を生かした社会貢献を実施する。

## 【資料B - 1 - - 3】国立大学法人愛知教育大学第3期中期計画

[https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/H28\\_03\\_keikaku\\_160331.pdf](https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/H28_03_keikaku_160331.pdf)

**概要**

【44】 企業連携については、第2期に締結又は実施した ICT 教育に関する共同研究、環境エネルギー教育の推進、ビオトープを活用した環境教育等の活動を継続的に発展させるとともに、第3期では更に NIE 教育（新聞を教材として活用した教育）を中部地区の新聞社との共同事業により推進し、さらに刈谷ロータリークラブ（地元の中堅企業代表が参加）や刈谷市所在の行政機関（官公庁関係）等との連絡会議を定期的で開催することで各種の企業体験やインターンシップ、フレンドシップ事業等の連携を強化し、学生や教職員の社会性や地域貢献への意欲を向上させる。

【45】 地域創生を目指し、第2期では、近隣の刈谷市ほか5市と包括協定を締結し、科学・ものづくり教育の推進や中心市街地の活性化等に取り組んできた。第3期では、本学の登録商標である「しょくまるファイブ」を活用して刈谷市等が行っている食育推進を国内外に広めるなど、より広範な地域貢献を目指し、新たな市町村との包括協定の締結に向けて積極的に取り組む。

【47】 第2期に作成した、本学に在職する教員の専門領域、支援実績、支援可能内容等を一覧にした「学校教育支援データベース」の更新を定期的に行うとともに、データベースの冊子を県内の教育委員会及び学校等に配布するだけでなく新たに中部地区の教育委員会等にも配布することで、広域拠点型教育大学としての使命を有する本学の人的資源の有効活用を推進する。

【88】 第2期で行ってきた広報活動を活性化し、第3期では、大学や附属学校における特色ある教育活動の紹介、「AUE 学生チャレンジ・プログラム」の成果報告、教員と学生の共同による研究成果、地域貢献活動等を Web サイトや広報誌を活用して積極的に社会に発信する。また、受験生を対象としたオープンキャンパスや大学説明会等の開催に加えて、第3期には本学卒業生・修了生を対象としたホームカミングデーを開催して教職員との交流の場を提供するとともに、教育研究活動などの本学の取り組みを紹介し、参加者から意見を集約して、教育研究の改善に生かす。

**現職教員**

【40】 教育研究活動の成果を社会に還元するために、第3期では、現職教員を対象とした公開講座を増やし、年間15講座以上開講する。また、教育委員会等との協働による研修プログラムの新たな開発を行い、アクティブ・ラーニングや現職教員のキャリア・ステージに応じた育成指導目標の作成等の再教育システムを構築し、現職教員の研修をサポートする。

**教育機関**

【46】 第2期に愛知県のユネスコスクールの基幹校に任命されたことから、第3期は県内のユネスコスクールの活動支援を積極的に行うとともに、教育委員会等と連携し、各学校の成果発表及び情報交換会等を開催して、「持続可能な開発のための教育（ESD）」を進める。

## 地域住民

【41】 ものづくりが盛んで外国人労働者の多い中部地区では、日本語学習を中心とした支援（日本語教育指導）を必要とする外国人児童生徒及び労働者が多いことから、地方公共団体・NPO等と連携して、ボランティア活動に参加する人が指導技術を身につけるためのプログラム等を策定し、修了者には「AUE日本語指導員講習修了認定証（仮称）」を交付して、日本語教育の支援活動を普及させる。

【42】 第2期に実施した一般市民向けの大学公開講座等の開設を更に拡充させ、第3期では10%増の年間30講座以上を開講し、社会人教育の充実に向けた短期プログラムの開発に取り組む。

【43】 学外からの要望が多い心理教育相談や発達支援相談活動を充実させるために非常勤カウンセラー等を導入する。また、図書館での絵本の常設展示、大学生協購買部での育児本フェア等を開催して、育児相談事業との接続をはかりながら、子育て支援や就学前児童の支援を積極的に行う。

【49】 第2期には、子どもまつり（学生が主体となって年2回大学キャンパスを開放して地域の子どもたちと交流する企画。毎年約2,000人参加）や科学・ものづくりフェスタ@愛教大（理科や技術科の学生と教員が中心となって、11月に講義棟を開放して子どもたちに科学やものづくりの面白さを体験させる企画。毎年約1,000人参加）等を開催して、大学の施設設備を活用しながら、子どもたちの学習や交流の場を設けてきた。これらのイベントを第3期も継続し、更に緑豊かなキャンパスの特性を生かして、就学前の子どもを有する親たちが集い、地域の方々にも憩いの場所となるようなエリアの整備を国の財政措置の状況を踏まえ行う。

上記【 】内の数字は、中期計画の番号を示す。

## 【分析結果とその根拠理由】

地域貢献活動の目的について大学憲章、中期目標に定め、達成のための方策を中期計画、年度計画に定めており、これらの目的と計画について本学 Web サイト等に掲載し、適切に周知されていると判断する。

観点B - 1 - : 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

1. 概要

本学は、中期計画に基づき、教員養成に特化した広域拠点型教員養成大学として、学校をはじめとした教育機関、行政機関、企業等と積極的に連携事業を行うとともに、地域住民へは公開講座や大学開放などを通じて生涯教育を支援し、教育研究活動の成果を還元している。

県内市町村との包括協定及び教育委員会との相互連携協定等を計画的に進め、令和3年3月末現在の締結数は、愛知県全54市町村のうち49市町村(90.7%)に達している。

企業との連携も積極的に進め、令和3年3月末現在の締結数は、6企業となった。

また地域からの教員派遣依頼件数は、平成31年度は608件、令和2年度は450件となっている。【別添資料B - 1】

これらの地域連携に関する事業は、地域連携センター、日本語教育支援センター、科学・ものづくり教育推進センター、教職キャリアセンターで担当している。地域連携センターの事務室を、平成31年度に地域と大学をつなぐ窓口として整備し、地域社会のニーズを汲み取るとともに、教育研究活動の成果を地域に発信する拠点を設けた。日本語教育支援センターを令和2年度に新たに開設し、地域の日本語指導が必要な外国人児童生徒の支援を充実するため、人材の養成、研究活動の拠点を設けた。令和3年度に科学・ものづくり教育推進センターの拠点を整備すべく改修を行っている。

2. 現職教員を対象とした活動について

本学では継続して公開講座を開講しており、講座内容について、受講者アンケートからの意見や、教育現場の現代的課題などを取り入れ、内容を検討し開設している。連携協定を締結している教育委員会と、共同事業として連携公開講座を開設し、ミドルリーダーを対象とした講座や、教育委員会の委員を対象とした講座を開講している。

また、現職教員が、上位の免許状や他の種類の免許状を取得するための免許法認定公開講座や、教員免許状の更新のための免許状更新講習を継続して実施している。【資料B - 1 - B - 1】、【資料B - 1 - B - 2】、【別添資料B - 2】

【資料B - 1 - B - 1】教員向け公開講座開設状況（H28～R2）

年度	本学主催の講座			教育委員会との 連携公開講座			免許法認定公開講座		
	開設講座	実施講座	受講者数	開設講座	実施講座	受講者数	開設講座	実施講座	受講者数
H28	10	7	26	1	1	31	12	12	565
H29	10	9	64	2	2	148	12	12	915
H30	11	8	38	5	5	171	12	12	879
H31	13	12	69	6	5	197	28	28	1,154
R2	13	-	-	8	2	104	12	-	-

表中の「-」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を中止したことを示す。

## 【資料B - 1 - - B - 2】教員免許状更新講習の実施状況（H28～R2）

年度	愛知教育大学 実施分								
	対面講習								
	必修			選択必修			選択		
	講座開設数	講座実施数	受講者	講座開設数	講座実施数	受講者	講座開設数	講座実施数	受講者
H28	4	4	777	16	16	786	77	74	2,176
H29	4	4	701	17	17	719	72	69	1,938
H30	4	4	773	18	18	906	73	66	2,388
H31	4	4	638	17	17	632	68	59	1,863
R2	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の「-」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を中止したことを示す。

年度	教員免許状更新講習推進機構（KAGAC）実施分											
	eラーニング講習											
	必修			選択必修				選択				愛教大会場
	講座開設数	講座実施数	KAGAC 全受講者	講座開設数	講座実施数	KAGAC 全受講者	講座開設数	講座実施数	KAGAC 全受講者	実人数		
H28	1	1	1,795	4	4	1,806	27	27	5,367	702		
H29	1	1	2,003	9	9	2,009	40	40	6,097	746		
H30	4	4	4,054	20	20	4,026	98	98	12,317	1,621		
H31	4	4	3,183	20	20	3,186	94	94	10,082	1,189		
R2	4	4	6,727	20	20	6,748	94	94	20,883	-		

表中の「-」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を中止したことを示す。

### 3. 教育機関を対象とした活動について

本学が立地する愛知県及び東海地方は、日本語学習の支援を必要とする外国人児童生徒が多い地域であるため、外国に繋がりのある児童生徒が多く在住しており、その児童生徒の日本語習得や現場の教員への支援のため、近隣市と連携し、本学学生ボランティアによる支援活動や教材の開発を継続して行っている。【資料B - 1 - - C - 1】

愛知県は全国で最もユネスコスクールが多く、本学を含めた166校が活動している。さらに、本学はユネスコスクール支援大学間ネットワークに加盟し、県内ユネスコスクールの支援を行う大学としても活動を行っている。平成24年度から継続して、加盟校を中心とした研修会「愛知県ユネスコスクール指導者研修会」を開催している。令和2年度は、新たな取り組みとして愛知県教育委員会と共催にて開催し、「愛知県ユネスコスクール交流会」（愛知県教育委員会主催）と同日同会場で時間を分けて開催した。【資料B - 1 - - C - 2】

高校訪問授業は、高等学校と大学との連携の一つの形として、大学で実際に行われている講義・授業等を身近に体験することで、高校生の大学に対する理解を深め、進学意欲を高めるとともに、今後の学習意欲を喚起することを目的とし実施しており、学内の予算確保をして、対応している。【資料B - 1 - - C - 3】

平成28年度に愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会と協働で「学び続ける教員像」の確立に向けた研修プログラムを開発し、中堅教員を対象としたミドルリーダー研修を開催するなど、現職教員の資質向上を図るための講座を実施した。愛知県総合教育センターの「マネジメント研修」、名古屋市教育センターの「ミドルリーダー研修」に本学教員が講師として継続して協力している。【資料B - 1 - - C - 4】

【資料B - 1 - - C - 1】近隣市への学生派遣状況（H28～R2）

年度	学生ボランティア登録者数	個別支援			集団支援		
		支援児童生徒数	ボランティア学生数（実数）	依頼数	対象児童生徒数	ボランティア学生数（延べ）	実施回数
H28	269	95+3 学級	97	169	114	349	26
H29	343	99+2 学級	107	188	134	223	26
H30	330	119+1 学級	126	241	133	325	25
H31	258	76+3 学級	91	212	125	369	26
R2	253	68	68	136	55	151	6

【資料B - 1 - - C - 2】愛知県ユネスコスクール指導者研修会の開催状況（H28～R2）

開催日	会場	講演者
平成28年12月16日（金）	ウィンクあいち	公益財団法人ユネスコアジア文化センター教育協力部長
平成29年12月15日（金）	ウィンクあいち	文部科学省国際統括官付ユネスコ振興推進係長
平成30年12月14日（金）	ウィンクあいち	ESD活動支援センター次長
令和元年12月12日（木）	愛知教育大学	愛知県教育委員会 生涯学習課青少年教育・女性指導者支援グループ 主査
令和2年10月17日（土）	ウィルあいち	文部科学省国際統括官付国際統括官補佐

【資料B - 1 - - C - 3】高校訪問授業数（H28～R2）

項目	H28	H29	H30	H31	R2
申込件数	31	30	32	34	25
訪問件数	31	30	32	29	19

## 【資料B - 1 - - C - 4】愛知県総合教育センターとの連携事業(教員派遣実績)(H31, R2)

	研修・講座名	コース等	派遣人数 (H31)	派遣人数 (R2)	
基本研修	中学校初任者研修		1		
	特別支援学校初任者研修		1	1	
	新規採用養護教諭研修		1	1	
	5年経験者研修	栄養教諭5年経験者研修	1	1	
	10年経験者研修	小学校10年経験者研修	8	8	
		小中学校10年経験者研修	12	4	
		中学校10年経験者研修	10	5	
		高等学校10年経験者研修	13	5	
	栄養教諭10年経験者研修	1	1		
	特別支援学校10年経験者研修	3	3		
職務研修	小中学校初任者研修拠点校指導教員研修		1		
	園長等運営管理研修		1		
課題研修	学級づくりに生かす教育相談講座		1	1	
	小学校外国語活動及び外国語科講座		1		
	多職種連携を意識した組織で行う教育相談講座		1		
	教科情報における文部科学省教材活用講座			4	
専門研修	算数・数学科講座	A：小学校コース B：中学校コース	2 1	2	
	生活科講座		1		
	音楽科講座	A：小学校コース B：中学校・高等学校コース	1 1		
	図画工作・美術科講座		1		
	保健体育科講座	A：小・中学校コース B：高等学校・特別支援学校コース	4 2	1 1	
	技術科講座		3		
	家庭科講座	A：小・中学校コース B：高等学校コース	1 1		
	福祉科講座		1		
	特別支援教育講座	A：ユニバーサルデザインの授業セミナー B：自立活動セミナー C：重複障害児教育セミナー D：アセスメントセミナー1	1 1 1 1	1 1 1 1	
	合 計			79	42

## 4. 地域住民を対象とした活動について

本学では一般市民向けの公開講座も開設しており、アカデミックコース、高校生コース、小中学生・子育て支援コースなどのほか、包括協定等を締結している近隣市と開催する連携公開講座も開設している。受講者への託児サービスを提供し、修了者を対象に修了証書を授与している。アカデミックコースの中の「AUE 日本語指導講習」は、ボランティアとして大人や子どもへの日本語指導に携わっている地域住民を対象に日本語教育の基礎的な知識の習得を目指した講座で、地域課題の解決を目指し平成30年度に開設した。講習課程を修了した受講生に対して、「AUE 日本語指導講習修了認定証」を授与している。【資料B - 1 - - D - 1】、【別添資料B - 3】

科学・ものづくり教育推進センターでは、「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」を継続して毎年開催している。大学に地域住民を招き、学生、地域の学校、企業等が企画したブースで、科学・ものづくりのおもしろさ・楽しさを実感するイベントで、教員養成系大学の特

性を活かした事業である。令和2年度で14回目を迎えた。また、大学の「AUE パートナースhip団体」\*である学生団体「訪問科学実験わくわく」が主体となつて行う訪問科学実験や、技術教育講座の学生が主体となつて開催するものづくり教室も、継続して開設している。

【資料B-1-D-2】、【資料B-1-D-3】、【資料B-1-D-4】、【資料B-1-D-5】

日本語教育支援センターの外国人児童生徒支援部門では、地域の外国人を招き、大人、子どものクラス別に学生ボランティアから日本語を学ぶ「土曜親子日本語教室」を開催している。【資料B-1-D-6】

また、地域連携センターにおいて、SDGs、ESDに関連する活動について積極的に取り組んでいる。SDGsの普及啓発活動を行っている学生団体と協力し、学内での関心を高めるためのイベントを開催しているほか、令和2年度に地方創生SDGs官民連携プラットフォームに加盟し、学外での活動も広げている。教育大学としてのSDGsへの取り組みは、地域の企業や行政機関等からも関心を持たれ、イベントへ出展についての依頼があるなど、連携活動へと繋がっている。令和2年度に開催された「愛知学長懇話会SDGsリレーシンポジウム」での研究・実践活動の発表においては、学生団体が最優秀賞を受賞した。

\*「AUE パートナースhip団体」とは、愛知教育大学が本学学生団体のうちで主体的・積極的に学内外で活動を行い、本学の教育、研究及び社会貢献活動に貢献していると認定した団体のこと。

#### 【資料B-1-D-1】一般向け公開講座開設状況（H28～R2）

年度	本学主催の講座			各市との連携公開講座		
	開設講座	実施講座	受講者数	開設講座	実施講座	受講者数
H28	13	9	77	16	15	251
H29	12	11	144	17	17	354
H30	15	15	159	16	16	381
H31	15	13	190	17	17	289
R2	16	-	-	16	2	38

表中の「-」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を中止したことを示す。

#### 【資料B-1-D-2】科学ものづくりフェスタ参加状況（H28～R2）

年度	来場者
H28	1,100
H29	1,250
H30	1,100
H31	1,050
R2	400

#### 【資料B-1-D-3】訪問科学実験開催状況（H28～R2）

年度	小学校	中学校	地域等	参加学生
H28	14	3	22	400
H29	13	2	26	414
H30	16	1	14	353
H31	16	0	15	365
R2	1	0	7	109

## 【資料B - 1 - - D - 4】訪問科学実験わくわく活動実績 (H31~R2) (単位:人)

実施日	実施会場	参加学生数	参加者数	
			児童・生徒	保護者
平成31年 4月20日	刈谷市 夢と学びの科学体験館	26	約600	多数
令和元年 5月6日	蒲郡市 生命の海科学館(液体窒素ショー)	5	約70	多数
5月12日	蒲郡市 生命の海科学館	23	約70	多数
5月15日	刈谷市 富士松北小学校	6	60	0
5月18日	豊田市 小原交流館	5	16	0
5月19日	大学祭 @愛知教育大学	4	多数	多数
5月25日	大学祭 @愛知教育大学	4	多数	多数
5月29日	刈谷市 小垣江小学校	7	94	0
6月19日	刈谷市 平成小学校	5	80	0
6月22日	東浦町 緒川小学校	58	274	270
6月26日	刈谷市 かりがね小学校	5	138	0
7月17日	岡崎市 三島小学校	7	84	0
7月21日	名古屋市 吹上ホール(名古屋市中小企業振興会館)	6	多数	多数
7月28日	知立市 生涯学習スポーツ課	6	30	0
8月10日	蒲郡市 生命の海科学館(液体窒素ショー)	4	約70	多数
8月14日	刈谷市 夢と学びの科学体験館	7	600	多数
8月18日	刈谷市 北部生涯学習センター	6	約40	数名
8月24日	西尾市 中畑小学校	11	45	数名
9月13日	名古屋市 西福寺おかげさま食堂	5	70	60
9月22日	東京学芸大学	6	多数	多数
9月29日	日進市 赤池プライムツリー	3	多数	多数
10月12日	刈谷市 創意工夫展(台風のため中止)	-	-	-
10月13日	刈谷市 創意工夫展	6	150	150
11月3日	とよたものづくりフェスタ	8	約300	多数
11月16日	科学・ものづくりフェスタ@愛教大	69	多数	多数
11月23日	名古屋市 城北小学校	18	120	100
11月24日	岐阜 メディアコスモス	3	70	70
12月4日	岡崎市 小豆坂小学校	7	108	0
12月8日	名古屋市 立植田南小学校PTA	8	200	30
12月14日	名古屋市 呼続小学校PTA	6	50	50
12月18日	刈谷市 朝日小学校	4	117	0
令和2年 1月15日	刈谷市 日高小学校	5	97	0
1月29日	刈谷市 衣浦小学校	-	-	-
2月1日	尾張旭市 立東栄小学校	7	50	20
2月9日	かきつばた子ども会	4	164	8
2月22日	豊橋才能教育こども園	6	100	有
3月12日	新城市 立千郷小学校	-	-	-
3月12日	新城市 立千郷中学校	-	-	-
4月19日	豊明市 東阿野子ども会	-	-	-
4月19日	森岡子ども会	-	-	-
5月6日	生命の海科学館(液体窒素ショー)	-	-	-
5月31日	生命の海科学館	-	-	-
6月6日	浜松科学館	-	-	-
6月7日	夢と学びの科学体験館	-	-	-
6月27日	東浦町 立緒川小学校	-	-	-
8月23日	夢と学びの科学体験館	-	-	-
8月25日	大府市 立森岡公民館	-	-	-
8月29日	刈谷市 北部生涯学習センター	9	10	数人
9月5日	安城市 市民生活部危機管理課	-	-	-
9月23日	岡崎市 立三島小学校	-	-	-
10月10日	刈谷市 生活創意工夫展(台風による中止)	-	-	-
10月11日	刈谷市 生活創意工夫展	7	多数	多数
11月14日	科学・ものづくりフェスタ@愛教大	52	120	120
12月5日	森岡子ども会	14	100	数人
12月13日	東阿野子ども会	5	27	3
令和3年 1月13日	刈谷市 平成小学校	10	66	0
1月20日	富士松北小学校	-	-	-
1月27日	小垣江東小学校	-	-	-
2月20日	呼続小学校	-	-	-
3月7日	東阿野子ども会	6	27	数人
3月13日	森岡子ども会	6	20	数人

表中の「-」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を中止したことを示す。

## 【資料B - 1 - - D - 5】ものづくり教室開催状況 (H31~R2)

(単位:人)

実施日	実施会場	内容	教員・支援員	参加者数
平成31年4月20日	愛知教育大学	オリジナルキーホルダーをつくらう!	4	0
令和元年5月11日	愛知教育大学	木でつくる身近なものづくり - 小箱やミニテーブルなど -	5	15
6月15日	愛知教育大学	形状記憶合金で熱エンジンをつくらう	4	7
22日	愛知教育大学	土を知って、土づくりから野菜づくり - インゲン豆とモロヘイヤをいっしょに育てよう -	5	12
29日	愛知教育大学	フルフル発電機をつくらう	4	15
11月2日	刈谷市産業振興センター	刈谷産業まつり2019	14	45
3日	豊田スタジアム	わくわくワールド(とよたものづくりフェスタ2019)	5	80
16日	愛知教育大学	科学・ものづくりフェスタ@愛教大	20	123
令和2年1月11日	愛西市文化会館	フルフル発電機をつくらう オリジナルキーホルダーをつくらう! 木で役立つものをつくらう 形状記憶合金の熱エンジン	16	30
6月13日	愛知教育大学	フルフル発電機をつくらう		
13日	愛知教育大学	オリジナルキーホルダーをつくらう!		
20日	愛知教育大学	形状記憶合金で熱エンジンをつくらう		
7月11日	愛知教育大学	木でつくる身近なものづくり - スライド式小箱・貯金箱・写真立て付ペンスタンドなど -		
11月14日	愛知教育大学	科学・ものづくりフェスタ@愛教大	24	86

表中の「-」は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催を中止したことを示す。

## 【資料B - 1 - - D - 6】土曜親子日本語教室開設状況（H28～R2）

年度	土曜親子日本語教室	
	開催回数	ボランティア学生
H28	28	446
H29	21	251
H30	22	234
H31	15	156
R2	5	96

## 【関連センターの概要，規程及び広報誌等の公開状況】

愛知教育大学地域連携センター規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/351.html>

愛知教育大学地域連携センター委員会規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/461.html>

地域連携センター

<http://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/support.html>

地域連携センター広報誌「ちいきの大学」

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/chikinodaigaku.html>

愛知教育大学科学・ものづくり教育推進センター規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/363.html>

愛知教育大学科学・ものづくり教育推進センター委員会規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/462.html>

科学・ものづくり教育推進センター

<http://www.step.aichi-edu.ac.jp/>

愛知教育大学日本語教育支援センター規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/591.html>

日本語教育支援センター

[https://www.aichi-edu.ac.jp/center/gakunai\\_center/nihongo\\_center.html](https://www.aichi-edu.ac.jp/center/gakunai_center/nihongo_center.html)

愛知教育大学教職キャリアセンター規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/463.html>

教職キャリアセンター

<https://www.aichi-edu.ac.jp/kyo-car/>

連携・協定について

<http://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/kyotei.html>

外国人児童生徒支援（リソースルーム）

<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/>

公開講座

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/lecture.html>

愛知教育大学教員免許状更新講習等運営委員会規程

<https://www.aue-kitei.jp/doc/auekitei/rule/59.html>

## 【分析結果とその根拠理由】

本学の中期目標・中期計画に基づき、地域連携センター、日本語教育支援センター、科学・ものづくり教育推進センター、教職キャリアセンターの各センターにおいて多様なプログラムを提供している。

なかでも、日本語教育支援センターが実施している地域の外国人児童生徒への支援、科学・ものづくり教育推進センターが実施している科学・ものづくりフェスタ@愛教大、訪問科学実験は、中期計画に基づき実施しており、地域社会の特色ある要請に応えた地域貢献活動である。継続して多くの依頼や、参加があることから、地域に根ざした「教育の総合大学」としての特性を生かした社会貢献を、適切に実施していると判断する。

観点B - 1 - : 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

## 【観点に係る状況】

公開講座の内容についてのアンケート調査結果において、とても良い、あるいは良い、との回答が概ね90%を維持している。【資料B - 1 - - 1】、【資料B - 1 - - 2】【別添資料B - 4】

公開講座の「AUE日本語指導講習」について、「AUE日本語指導講習修了認定証」の交付を受けた受講者は、受講後、自治体や国際交流協会における日本語教室でのボランティア活動や、小中学校における日本語支援活動を行っており、小学校教員の場合では外国籍担当となっていたりする等、外国人支援の場面で活躍をしていることが、聞き取り調査により判明している。

科学・ものづくりフェスタ@愛教大についてのアンケート調査結果について、満足度が90%以上である。【資料B - 1 - - 3】【別添資料B - 5】

ミドルリーダー研修についてのアンケート調査結果について、高い達成度を維持している。【資料B - 1 - - 4】【別添資料B - 6】

外国人児童生徒支援について、文部科学省の令和元年度第3回「外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議」において、本学は先駆的な取り組みを行う大学としてヒアリングを受け、外国人児童生徒支援リソースルームの活動をはじめとする本学の取り組みを紹介するとともに、今後の外国人児童生徒教育の充実に向けて提唱した。外国人児童生徒支援部門リソースルームが開催するシンポジウムや教材作成については、新聞で報道されている。

また、日本語教育支援センター設立の際にも新聞報道があり、活動について注目されている。

## 【資料B - 1 - - 1】一般向け公開講座アンケート結果（H28～H31）（単位：％）

年度	回答者数(人)	とてもよい	よい	普通	やや良くない	悪い	無回答
H28	72	48.6	45.8	4.2	1.4	0	0
H29	130	60.8	31.5	7.7	0	0	0
H30	156	66.0	29.5	4.5	0	0	0
H31	166	61.1	26.9	5.7	0.6	0.6	0

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大による開催中止のため、アンケートを実施していない。

## 【資料B - 1 - - 2】教員向け公開講座アンケート結果（H28～H31）（単位：％）

年度	回答者数(人)	とてもよい	よい	普通	やや良くない	悪い	無回答
H28	26	65.4	30.8	3.8	0	0	0
H29	61	62.3	34.4	3.3	0	0	0
H30	33	66.7	24.2	9.1	0	0	0
H31	69	73.9	23.2	2.9	0	0	0

教員向け連携公開講座，免許法認定公開講座を除く。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大による開催中止のため、アンケートを実施していない。

## 【資料B - 1 - - 3】科学・ものづくりフェスタ満足度（H28～R2）（単位：％）

項目	H28	H29	H30	H31	R2
満足度	90	90	95	95	98
回答数	187	212	187	173	98

## 【資料B - 1 - - 4】ミドルリーダー研修達成度（H28～R2）

項目	H28	H29	H30	H31	R2
達成度	3.4	3.5	3.8	3.8	3.5
回答数	64	203	130	128	66

平成28年度から平成31年度までは、4件法による平均値。

令和2年度は、5件法による平均値を換算。

## 【分析結果とその根拠理由】

各種事業については、参加者数が多数あること、およびアンケート結果から高い評価を得ている。科学・ものづくりフェスタ@愛教大については、満足度が90%以上である。

外国人児童生徒支援部門については、文部科学省の有識者会議においてヒアリングを受けるなど活動は高く評価されていると考える。

以上の結果から、各種連携事業については、十分成果が上がっていると判断する。

観点B - 1 - : 改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

地域連携センターにおいては、センター委員会を年間6回程度開催し、活動状況を報告しており、具体的な企画・立案については、センターに所属する担当教員を中心に検証し、アンケートの実施やアンケート結果の分析を通して、改善のための取組を行っている。

教職キャリアセンター教員研修部門においては、本学、愛知県総合教育センター及び名古屋市教育センターの三者で教員研修連携協議会を設置し、年3回協議の場を設け、意見交換・検証を行っている。

教員免許状更新講習（対面講習）は、教員免許状更新講習等運営委員会で、その年の実施状況を報告し、次年度の改善のための検討を行っている。具体的な検討事例としては、受講希望の特に多い講習を複数回開設する、実技や演習を中心とした知識だけではなく、技能向上のニーズに対応するための講習を小規模で開催する等により改善を図ってきた。

外国人児童生徒支援については、日本語教育支援センター外国人児童生徒部門の中の外国人児童生徒支援リソースルームにおいて、毎月ミーティングを行い事業内容の検証を行い、その報告を日本語支援センターミーティングにて行っている。

「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」は、科学・ものづくり教育推進センター委員会において、実施状況を報告し、次年度の改善のための検討を行っている。

【分析結果とその根拠理由】

公開講座、研修会及び講習会を実施する地域連携センター及びそれを担当する支援部局等においては、事業を実施及びそれを改善するため、アンケートの実施や学外会議・連絡会議の調整など、関係する教育関係者及び各自治体関係者からの要望・意見を取り込み、教育サービスの改善を行っている。

以上のことから、改善のための取組が行われていると判断する。

(2) 目的の達成状況の判断

本学は、第3期中期目標の中で、「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」において、「地域社会の要請に応えるため、教育関係機関との連携を深め、地域に根ざした『教育の総合大学』としての特性を生かした社会貢献を実施する」としている。これを受け、連携協定の締結を積極的に進め、地域連携センター、日本語教育支援センター、科学・ものづくり教育推進センター、教職キャリアセンターにおいては、幅広い分野にわたって、社会貢献として、公開講座、講習会、研修会など、多様で豊富な教育サービスを提供している。これらのアンケート結果からも、本学の目的の達成状況は良好であると判断する。

(3) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・外国人児童生徒の日本語習得や現場の教員への支援のため、継続して、本学学生ボランティアによる支援活動や教材開発を行っている。
- ・「訪問科学実験」「ものづくり教室」については、子どもたちに科学の面白さや、ものづくりの楽しさを伝える「科学・ものづくり教育」を通して、本学学生に高い知識と実践的指導力の養成を目指しており、毎年秋に開催する「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」には、地元小学生を始め、多くの児童・生徒が参加している。

- ・平成 27, 28 年度の公開講座実施状況及び受講者からのアンケート結果を基に, 日本語教育のボランティアとして関わっている人などが指導技術を身につけるためのプログラム「AUE 日本語指導講習」を公開講座として開催した。受講後は, 受講生が日本語支援の場において活躍しており, 地域課題の解決に対応した講座内容となっている。
- ・本学として初めての試みで, 教育委員会の委員をターゲットとした公開講座を開講した。

**【改善を要する点】**

教員養成系の単科大学であり, 地域教育・地域行政及び地域住民に対して豊富で多様な教育サービスを展開しているが, 教員組織・事務組織体制, 本学参加学生の人数にも限りがあるため, 事業によっては, 十分な関わりが出来ない部分もある。地域事業に貢献した学生や教員に対して, 評価する仕組みづくりについて構築し, 地域貢献を促進することが必要である。